

○議長 辻本 一夫君

次に3番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

3番、長島です。議長より発言の許可をもらいましたので、通告書に従いまして質問のほうを始めさせていただきます。

件名1、将来を見据えた商工業の支援と振興について。

日本では新型コロナウイルスの猛威が少しずつ落ち着いてきておりますが、諸外国ではいまだに衰えを知らず蔓延状態が続いています。また、新たなオミクロン株の出現で感染の拡大も気になるところです。芦屋町では多くの独自支援策など全力でこの苦境を乗り切りつつありますが、今後、いつまた新型コロナウイルスの猛威にさらされるか分かりません。しかし、今は「コロナだからできない。」ではなく「何ができるのか。」という思考に変化してきております。そのためにも、今できる対応や将来的な支援がさらに必要かと思われれます。よって、以下の質問をいたします。

要旨1、新型コロナウイルス感染症芦屋町独自支援策（第7弾）の生活応援商品券発行事業で給付された商品券1万円の使用率について。

家計への生活応援と併せて地域経済の活性化、また、支援のためという目的で発行された生活応援商品券は、使用期間が令和3年6月1日から先日の令和3年11月30日まででありましたが、その使用率についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。生活応援商品券、こちらの使用率ということでございますが、換金率ということでもっとお答えをさせていただこうと思います。

現在、商品券の換金業務を行っております芦屋町商工会に確認をしたところ、換金は12月28日まで行われることになっておりますが、12月9日現在で、発行額1億3,401万円に対しまして換金額は1億3,151万2,000円となっております、換金率は98.1%となっております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

換金率が98%を超えていることで、その額面が芦屋町に還元されているということは非常に評価できる支援策だったのではないかと捉えております。

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

では次に、業種別の使用率を分かる範囲で教えてください。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

こちら12月9日現在の状況になりますが、小売業、食料品関連で81.6%、その他小売業で9.4%、飲食業5.1%、建設・自動車販売業が0.7%、サービス業・その他で3.2%となっております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

はい、分かりました。飲食店が意外にも低いと感じました。緊急事態宣言や自粛要請の影響だとは思いますが、小売業以外にはあまり使用されていない印象です。

では、次の質問に行きます。

要旨2、コロナウイルスの影響を一番受けたであろう町内飲食店の現状についてお伺いします。

多くの事業者は、長い緊急事態宣言や時短要請でかなり疲弊されております。協力金などの支払い遅れなどもあり、苦しい状況を脱していないとも聞きます。テイクアウトなど新しい形態にも挑戦し、何とか乗り切ったところもあったのではないのでしょうか。芦屋町でも様々な支援を行っていただいているのは評価に値しますが、生活応援商品券は飲食業には僅か5.1%しか使われていません。これは先だっつのプレミアム商品券も同じくらいかと予想されますし、感染症対策防止協力金申請期間も終了しております。

町の独自支援策として実施しました事業所事業継続支援給付金では、受付店舗数は飲食店が83件でしたが、令和2年度から現在までの店舗数の増減は分かりますでしょうか。お伺いします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。町内全ての飲食業は把握できておりませんが、芦屋町商工会に令和2年4月以降の会員推移を尋ねたところ、令和3年9月末の状況とはなりますが、飲食業はその間に3事業者が退会、10事業者が入会ということで、合計7事業者増ということになっております。こちらを合わせまして、9月末現在ですが飲食業の会員数は78となっております。

なお、退会された3事業者の退会、廃業の理由については、コロナの影響によるものなのかは正確には把握できておりません。

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

支援のおかげでコロナの影響での廃業店舗はなかったのであれば、支援が行き届いていたということだと思いますし、町内新規店舗の開業もあるようです。しかしながら先の読めない状況ははまだ続いており、飲食店の不安は続いていることだと思います。

先ほども言いましたが、協力金の申請期間は終了しましたが煩雑な申請の補助や対応など、どのように行っていましたか。お伺いします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。コロナに関する補助金申請等につきましては、芦屋町商工会が行っております経営課題解決サポート事業の一環としまして昨年度より申請サポート窓口を開設し、会員・非会員を問わず対応していただいております。

なお、福岡県感染拡大防止協力金の申請につきましては、申請の始まった当初、こちらのときは相談やサポートを受ける方がおられたということですが、後半は各個人で申請をされる方がほとんどであったというふうに伺っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

状況はよく分かりましたので、次に行きます。

要旨3、町内事業者へアッシーステッカー配布や県の感染防止ステッカー申請の支援などをしていただいていたのですが、現在は飲食店を対象とした金色の感染防止認証マークに変わってきております。こちらの申請状況は県のホームページによりますと、現在、芦屋町では34件。実際にはもう少し多いと思われそうですが、総店舗数78件とまだ差があると思います。取得できていない店舗への対応はしていますでしょうか。

認証マークは継続的な感染防止対策の取組を支援するため、消毒液などの購入費用を支援しますとの名目で支援金5万円を支給しております。年末や新年に飲食店利用者が増えることと思います。県の抜き打ち調査でも、緩みからか4割が対策違反しておられたようです。町民の安心・安全を第一に考えると、油断はまだまだできません。

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

今後は、金色認証マークが優先的に県の支援ベースになるとも思われます。後手後手にならないよう、前に進むため飲食店へ早めの対応をしなければいけないのではないのでしょうか。感染症対策にゴールはありません。もっと取得のあっせんなどで、さらなる感染対策の啓発をしていただきたいが、お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。飲食店を対象とした金色の感染防止認証マークの認証状況でございますが、12月9日時点で、議員のおっしゃるとおり芦屋町は34件となっております。また、郡内の状況は遠賀町が25件、岡垣町が31件、水巻町が34件となっております。この感染防止認証マークは、申請後に県の調査員が現地確認を行い、条件を満たしている店舗に認証する制度となっております。現在の承認待ちの店舗数は不明でございますが、公表されている店舗以外にも申請中の店舗があるのではないかと考えられます。

認証制度の周知につきましては、町はホームページへの掲載やチラシの配架、商工会では会報誌に制度チラシの折り込みなどを行っていただいているところでございます。今後、お客様の受入れや支援対象などの条件になるものとも思われますので、まだ申請されていない店舗へチラシの再配布などにより周知や申請の呼びかけを続け、認証店舗が増加するよう取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

飲食店会員店舗数78店舗には数字的にはまだ離れていますので、早めの確認や対応をお願いしておきます。

要旨4に行きます。将来的な商工支援策について。

多くの町内飲食店はまだまだ閑散としています。本来ですと、この時期は多くの忘年会・新年会など予約が入っているはずですが、今はまだ個人的に自粛をしている方も多いのかと思います。

「元の経営状況には程遠い。」という声を聞き、町内が活性化しているとはまだ思えません。飲食店に関わる業者は取引がないと在庫も増え、苦しい時期が続いていることと思います。協力金申請できないテイクアウト専門店やカフェスタイルの店舗もあります。プレミアム商品券は依然好評のようですが、先ほどの業種別使用割合はあくまで参考として、本当に苦しいところはどこなのか、支援が行き届いていないところはどこなのかをきちんと見極めていただきたいと思っております。

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

先日、利用期間の延長が決まりました福岡県のキャンペーン、G o T o E a tで食事券が使える店舗は、町内飲食店は13軒しかありません。また、こちらも2月まで延長が決まりました、ふくおか避密の旅キャンペーンでの地域クーポン券が使える店舗はさらに少なく、町内6軒しかない状況です。使ったことがある方もいると思いますが、このシステムは物すごくお得です。宿泊観光に限らず日帰り観光にも使えますが、使用可能店舗がこの少なさでは、なかなか町内に来てもらえないと思います。

先ほど商品券使用のパーセンテージをお聞きしましたが、やはり飲食店が活性化しないと飲食店に関わる農業・漁業、タクシーや代行業、また他の業者も疲弊してしまい、経済が回りません。町発行の商品券だけでは芦屋町民、芦屋町内でしか完結できません。芦屋町の飲食店は町外からのお客さんも多いと聞きます。町内、また町外の人もG o T oキャンペーンをもっと利用できるよう、町内事業者にもっと以前から支援・あっせんしておくべきだったのではないのでしょうか。岡垣町では、このG o T oキャンペーンを利用して町が代金を一部補助し、G o T oイートは岡垣でキャンペーンを既に11月より開始し12月31日まで延長を決め、今なお開催中で町内に人を呼び込んでおります。町でお得に飲食店を利用することで、そこに関わる食材提供者の農林漁業者などを応援しています。

芦屋町の認証店が増えていけばこういった取組もまた考えられたでしょうし、将来的にもキャンペーンが続くと予想されます。まずは、芦屋町でも積極的にG o T o認証店を増やすことをお願いしておきたいと思います。お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えしたいと思います。G o T oキャンペーンに関しましては、町はホームページへの掲載、チラシの配架、こちらを行っているところです。商工会では関係部会への文書配布などを行い、周知や参加の呼びかけを行っているところでございます。しかしながら町内のG o T o関連の認証店舗数は少数にとどまっており、限られた店舗でしか利用できないのが現状となっております。

G o T o認証店の増加は町外からの来訪を促し、町の観光振興にもつながるものと考えます。また、W i t hコロナでの集客対策としてもメリットがあるものだと考えておりますので、商工会とも協力し制度の周知と併せ、商工会申請サポート窓口の活用等についてもPRを行い、町内のG o T o認証店舗が増加していくよう今後も取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

昨日、観光協会がSNSを更新しておりましたが、ふくおか避密の旅キャンペーンのCM撮影で某人気女優さんが芦屋釜の里で撮影してくれております。メディア効果はやはり大きいと思います。今後、観光客が増えることも十分考えられますので、早く国や県のキャンペーンに連携できるよう、すぐにでも対応していただきたいと思っております。

次に観光振興に行きます。

件名2、将来（Withコロナ）を見据えた観光振興について。

前回の一般質問の中で芦屋町の魅力を発信し、海岸線の資源を有効活用しようと提案してきました。芦屋町は残念ながら駅がないので、移動手段はバス、むしろほとんどの観光客は車で来ることになる地域です。しかし、ドライブに適した横に広がる海岸道路も短く、海沿い店舗もそんなに多くはありません。宿泊施設も少ないので、半日以上滞在してもらうのもなかなか大変な場所です。やはり何か付加価値がなければ観光客誘致も大変です。もし、こんな施設があれば芦屋町の観光振興の幅が広がるのではないかと思います、質問したいと思えます。

芦屋町でも将来的な観光振興を考えておかなければならないと思えます。コロナ禍で旅行業者や交通業界は非常に苦勞を強いられております。それに反して屋外レジャーのニーズは高まっており、キャンプ人口は年々増え続けています。私も趣味の1つがキャンプですが、県内どこのキャンプ場も予約が取れず満員が続いています。現在、働き方改革で就業形態の変化やコロナ禍でのレジャーの考え方が変わってきており、外出自粛でうち時間が増えたことやソーシャルディスタンスで屋内での活動ができづらくなり、また、県外をまたぐ遠方への旅行も制限されていました。

このような中、近年キャンプ場の利用客は急激な伸びを見せています。家族の時間や自分の時間に重きを置く人が増え、スローライフの実現や、また、不便を楽しむといった非日常体験を好む人が増えていることもキャンプ人気の要因だと思われれます。キャンプは屋外で人との距離が取りやすいことや交通機関を利用せず車やバイクなどでの移動、また手軽な利用料金など様々な要因が今の時代に最もマッチしたレジャーと言えるのではないのでしょうか。本年度は終了しましたが、岡垣町では地域の旅館と連携したリョカンピングという魅力的な事業も展開しておりましたし、直方オートキャンプ場や遠賀総合グラウンドのキャンプ場なども3か月先まで、週末に限っては予約がいっぱいです。もちろん、芦屋町にも総合グラウンドにみどりの広場キャンプ場があるのは知っています。その上で、あえて質問します。

芦屋町でも、観光客受入れやファミリーの憩いの場をさらに準備していくことが大事だと思います。その1つの案として、新しくキャンプ場を考えてみてはどうでしょうか。芦屋町には海浜公園の奥に海まで数秒の広大な芝生広場を有し、また夕日の見える絶景の魚見公園や夏井ヶ浜な

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

どファミリーキャンプやソロキャンプに適した地域資源を有しています。また、北九州市や福岡市など都市圏からも近い位置にあり、高速道路の各インターチェンジからも近く、キャンプ場としての立地条件や要素はまさに最適かつ最高の海町だと考えます。また、現在は宿泊施設が少ないため、どうしても日帰り観光がメインになってしまうことも踏まえて、地域で体験、また、交流できる着地型観光振興を考えていく必要があります。まず、今回は検討が進んでいる芦屋港レジャー港化に関して質問いたします。

要旨1、今後レジャー拠点となる芦屋港は、導入する主な機能の中にアウトドア体験、ビーチスポーツ、そして緑地帯活用を掲げております。観光誘致のために安価で楽しめる宿泊施設の1つとして非日常的な生活空間の提供、自然との触れ合い、家族の団らん、人との交流体験ができる場所として、この既存の港湾横緑地帯や、みなどを活かした空間形成プロジェクトで対象としている海浜公園に、キャンプ場やグランピングなどの施設の導入を考えてみてはどうでしょうか。お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港レジャー港化におきましては、議員御指摘のように既存の緑地帯や海岸などを有効に活用したアウトドア体験、海や砂浜を生かしたアクティビティ機能などの導入も計画しています。現在、導入機能につきましてはマイクロツーリズムや屋外レジャー需要の高まりなど、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した新たな動向やニーズを捉えるWithコロナの視点を基に、観光動向調査や既存港湾施設のサウンディング調査などにおいて民間事業者の参入意向や意見などを踏まえ、現在精査しているところでございます。

一方で、施設整備や機能の導入については全てを行政が行うのではなく、民間でできることは民間に任せるという考え方が今後の行政運営には必要となります。議員御指摘のキャンプ場やグランピング施設については、民間事業者のノウハウが必要だと考えているところでございます。

また、緑地帯につきましては整備が必要な箇所や上下水道などのインフラが整っていない箇所もありますので、活用できるところから有効活用する段階的整備の方針を踏まえ、様々な視点から精査しているところでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

はい、分かりました。官民共同で有効資源を存分に生かした施設導入を期待しております。

要旨2に行きます。資料①のほうを御覧ください。

先週末の3日間、芦屋港湾横の駐車場で開催されていたオートキャンプのイベントです。車両が23台、総勢28人の方が芦屋町に来られ、家族や友人とたき火や料理など楽しんでおられました。主催者は遠賀町の方で、その他の参加者は全て町外の方々です。姫路市のほうから来られていた方もいたようです。たくさんSNSで芦屋町の発信もしてくれております。

こういったキャンプが実際に芦屋町でも開催できております。これが気候のいい春や秋だとしたら、もっとたくさんの方々が芦屋町に来てくれたのではないのでしょうか。絶好のにぎわい創出スポットになると思います。これを踏まえ、以下の質問をいたします。

港湾緑地帯は既存施設にトイレ、水場も備わっています。また、隣接した駐車場からも近い。必要に応じて改修も考えなければならないと思いますが、一からつくるのではなく事業者投資も少なく済むメリットもあります。

一方で港湾に限らず芦屋町全体を見ると、先ほど申したように、ほかにもアウトドア体験に関するポテンシャルが十分にあると思います。何より、海の見えるキャンプ場という海町芦屋の付加価値がつきます。キャンプ場があれば、食事は現地のスーパーなどで旬の食材を購入して料理する人が多いと思いますが、ほかにも芦屋町の魚介類を使ったバーベキュープランやデリバリーなどで、町内飲食店や水産業、農業などの既存形態とも連携できます。入浴はマリントラスを案内し、海釣りやサイクリングなどの体験プランにも誘導できます。また、キャンプで使用される薪やキャンプ用品などの需要も増えるため新規店舗の開業や誘致なども考えられ、商工観光の活性化にもつながると思います。いわゆる「来て見て触れて」の芦屋オリジナルの着地型観光プランを追求していけるとと思います。

実際に、先週末に開催されたこのオートキャンプの方々も芦屋町で買物をし、マリントラスで入浴されたそうです。活性化推進室では町民協働でワークショップなど積極的に開催していただいておりますが、町全体の着地型観光振興を考えていく上で、まずは港湾PRも兼ねた体験つきモニターキャンププランなどの開催を検討してはいかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化の視点でお答えをさせていただきます。着地型観光につきましては、芦屋港活性化に限らず芦屋町の観光振興という視点で非常に重要な取組だと考えております。観光振興におきましては地域にお金が落ちる仕組みをつくっていくことが必要となり、消費額を増やす仕掛けや戦略が求められ、各地で着地型観光の商品化は活発です。また、着地型観光商品の開発に当たっては人材育成の側面もあり、非常に効果的な取組だと捉えております。

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

このようなことから、芦屋港活性化におきましては機運醸成事業としてにぎわい創出や人材育成に取り組んでおり、着地型観光はその取組の1つと捉えているところでございます。昨年度に実施したワークショップではキャンプやアウトドア体験というアイデアも出されておりました、今後、ワークショップを通じて実現性を精査していく予定でございます。今後はこの事業を通して、芦屋港に限らず芦屋町全体の観光振興につながるよう産業観光課とも連携し、取り組んでまいりたいと思います。また、議員御指摘のように港湾の中には現在利用できる箇所もありますので、体験プログラムの開催など様々な方々に有効に活用していただきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

私は本気でキャンプ場を作りたいと思っています。私自身もキャンプインストラクターという資格を取得しましたので、協力して体験プランのほうを考えていきたいと思っています。

観光客を呼ぼうとする場合、オリジナルな視点で考えなければなりません。しかし、一たび町に来てもらえさえすれば、釣りをはじめとしたマリンスポーツやモーヴィ、観光協会の体験型プランのあしや体験などと組み合わせれば、コンパクトな移動距離も合わさって体験型宿泊プランとして大いに機能していくのではないのでしょうか。車で来てもらう、体験する、泊まる、この芦屋流体験型宿泊の流れを意識しておいてほしいと思います。

そして前回も言いましたが、「芦屋町を好きになってもらう。情報発信の部分で町内外への芦屋の魅力発信を積極的に。」と申し上げてきましたが、今は来てもらうための部分、SNS発信、観光マップや観光サインの整備、海、ボート、公園など主要スポットの整備、この部分は皆様の努力で既に徐々に出来上がりつつあります。次に大事なのは芦屋町に来てもらい、次に何をしてもらうか。食事なのか、町歩きなのか、ドライブなのか、アクティビティなのか。こういった非日常の体験を提供してあげられるような、先を見据えた着地型観光の準備をしておいてもらいたいと思います。

最後に、芦屋町の自然を愛してやまない町長。時間もありませんので、今後の観光振興や着地型観光への取組について一言意見伺わせてください。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

この件につきましてはですね、いつも常々私が申し上げておりますように、芦屋は「海」、この地理であるということですね、今まさに長島議員が言われたような全てのことをですね、網羅

令和3年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

して、そういうことをやりたいというその方向性をもって、これに今取り組んでおるわけでございます。

港は県港湾でございますので、県との協議というのがもう非常に重要になってくるわけで。最近、県のほうで予算がようやくつきまして、海釣りのほうが先になりますが、港のほうに海釣りの工事が始まります。ちょっとコロナの影響ですね、やっぱり1年半以上ちょっと会議ができなかったということで遅れておりますが、今、長島議員が言われたように、今言われたことは全て網羅できるような広さもあります。砂場の、いわゆるビーチバレー、ビーチサッカー、釣り場それからマリンスポーツ等々もメニューの中に今後いろいろ入ってこようかと思っております。

どうぞ御安心くださいませ。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

今回、ストレートに「港湾にキャンプ場」という提案をいたしました。海町芦屋は本当に魅力多い町です。まだまだキャンプ場に向いていると思う場所がありますが、今回は時間の都合上ここまでにしておきます。

芦屋町には誇れる自然や歴史、そしてレジャー、体験があります。職員の皆様も芦屋町の風を感じ、見て触れて体験してほしいと思っております。コロナ後でも、夏以外でも、芦屋町全体に人の流れが生まれる、そして継続的な支援や取組を検討していただきたいと切に願っております。

以上で、人に町に心に寄り添う、私、長島毅の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。